

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	きょういくえんげきけんきゅうきょうかい	団体ウェブサイトURL	
	公益社団法人 教育演劇研究協会	https://www.gekidan-tanpopo.com/	
代表者職・氏名	代表理事 森下 文雄		
制作団体所在地	〒 435-0015	最寄り駅(バス停)	浜松駅
	静岡県浜松市東区子安町323-3		
電話番号	053-461-5395		
ふりがな 公演団体名	げきだんたんぼぼ	団体ウェブサイトURL	
	劇団たんぼぼ	https://www.gekidan-tanpopo.com/	
代表者職・氏名	代表 村岡 由美子		
公演団体所在地	〒 435-0015	最寄り駅(バス停)	浜松駅
	静岡県浜松市東区子安町323-3		
制作団体 設立年月	1955年2月		
制作団体組織	役員	団体構成員及び加入条件等	
	代表理事 森下文雄 副代表理事 上保節子 他 理事13名、監事2名	(1) 団体構成員 個人正会員38人(うち劇団員27人) 個人賛助会員79人(うち法人会員5法人) (2) 加入の条件 法人の目的に賛同し、理事会の承認を得た者	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	松下哲子
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	森田美代子(経理) 鈴木登(監査)
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	tanpopo@gekidan-tanpopo.com		

<p>制作団体沿革</p>	<p>1945年 長野県篠ノ井町(現長野市)で小百合葉子主宰の児童劇団たんぽぽを発足。 1950年 長野県松本市へ拠点を移し、公演は、東京、静岡、岐阜、神奈川へと広がる。 1953年 活動の拠点を静岡県浜松市へと移す。 1955年 文部省(当時)から児童劇団として初めて公益法人格が許可され社団法人教育演劇研究協会を設立。 1963年 復帰前の沖縄公演に出発。沖縄全域120日209公演実施。 1966年 北海道に事務所を新設。 1972年 長野県に事務所を新設。 1986年 沖縄県に事務所を新設。 2012年 内閣府より公益社団法人の認定を受け、公益社団法人教育演劇研究協会に移行</p>			
<p>学校等における公演実績</p>	<p>劇団創立以来、公演回数は、延べ44,000回以上を実施。その公演のうちほとんど(約8割)が、学校体育館での公演である。 その公演活動範囲は、北海道から沖縄に及び、学校規模も児童数1,000人以上の学校から10人に満たない小規模学校まで、様々行っている。 年間公演回数は約350公演。 令和4年度「ルドルフとイッパイアッテナ」は、82日143公演を実施。</p>			
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>平成21年 静岡県文化振興プラン事業「長い長い郵便屋さんの話」 藤枝特別支援学校、静岡南部特別支援学校等8会場11公演(21校) 延べ2,553人 平成22年 諫早特別支援学校「100万回生きたねこ」 島原特別支援学校「100万回生きたねこ」 沼津特別支援学校「100万回生きたねこ」 袋井特別支援学校「ふしぎの森のヤーヤー」 平成23年 岡崎養護学校「ふしぎの森のヤーヤー」 平成24年 袋井市特別支援学校「ズッコケ妖怪大図鑑」 平成30年 北海道釧路鶴野支援学校「グリックの冒険」 令和2年 岡崎養護学校「おはなしレストラン」 令和3年 協和特別支援学校「おはなしレストラン」 旭川養護学校「おはなしレストラン」 白糠養護学校「おはなしレストラン」 令和4年 長崎県内特別支援学校 4校 「100万回生きたねこ」</p>			
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/9TBxolAZoYA</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>		
		<p>PW:</p>		

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 劇団たんぽぽ】

対象	小学生(低学年)	○		
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生			
企画名	舞台劇「ルドルフとイッパイアッテナ」			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>本公演演目『ルドルフとイッパイアッテナ』</p> <p>原作/斉藤洋・絵/杉浦範茂(講談社刊) 脚色/久野由美 演出/三重節朗 音楽/遠山裕 ステージング/酒井麻也子 美術/矢羽田輝伸 衣装/柿平衣名美 照明/坂本義美 音響/山北史郎 制作/上保節子</p> <p style="text-align: right;">公演時間 60 分</p>			
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名	原作・絵・上記記載の各種プラン
	該当事項がある場合	権利者名 講談社・各種プランナー (上記記載者)	許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済
演目概要	<p>原作の「ルドルフとイッパイアッテナ」は、1987年の刊行以来、子どもたちに長年愛されてきた、名作児童文学。その舞台化です。ある日、魚屋に追われて、長距離トラックに乗り込んでしまったルドルフ。たどり着いた知らない街で、兄貴分のイッパイアッテナやノラ猫たちと暮らしながら、飼い主りえちゃんの家へ帰る方法をさがします。たくましく成長していくルドルフと猫たちの友情物語。見た目にもカラフルな舞台や衣装、歌と踊りがいっぱい、とびきり楽しいおはなしです。</p>			
演目選択理由	<p>・児童書として人気の「ルドルフとイッパイアッテナ」は、数々の舞台化、映画化がされています。劇団たんぽぽでも、過去に3度舞台化し、大変好評を得ている作品です。</p> <p>・様々な制約の中で、息苦しさを感じてしまいがちな今こそ、明るく、元気が出るお話を届けたい。どんな困難も、「絶望は愚か者の答えだ!」と、仲間たちと一緒に、知恵と勇気を振り絞って、乗り越えようとするルドルフの姿は、見ている子どもたちに元気と勇気を与えたいと思います。</p> <p>・様々なキャラクターの猫たちや、いじわるな犬、人間たちが、登場します。もともとは、ひとりぼっちの彼らが、出会い、時に仲違いしながらも、友情を育んでいく物語は、子どもたちにとって、とても身近に感じる内容となっています。そして、エンディングソングでは、猫も犬も人間も、黒猫もぶち猫もみんな違うけど、みんな友だちでしょ?「We are all friends」と、問いかけます。どんな違いがあっても、私たちは、今と一緒に生きる仲間だということを感じて欲しいと思い選択いたしました。</p>			
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	<p>演劇というのは、観客も一緒に舞台を作り上げているんだという気持ちを、共有したいと考えています。そのため、児童生徒全員が上演中にアクションをとり、出演者と相互にコミュニケーションがとれるような参加を目指します。</p> <p>① エンディングソング「We are all friends」の歌詞に手話を取り入れた振付を、ワークショップの時に練習し、本公演の際、一緒に振り付きで歌います。全校生徒で参加し、出演者と一緒にラストシーンを盛り上げます。</p> <p>② 学校側の希望により、舞台設営や片付けの様子を見学できるようにします。また、終演後、バックステージツアー(舞台裏見学)で、小道具や衣装等に触れる機会を作ったり、質問コーナーや舞台上での記念撮影等で、役者たちとの交流を図ります。</p>			
出演者	岩本道夫・渡部泰騎・佐藤史織・鈴木美保・村瀬諒・望月香澄・山田幸音・(予定)			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 7 名 スタッフ: 2 名 合計: 9 名	運搬	積載量: 4 t 車長: 6.35 m 台数: 1 台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8:00	8:00~11:00	13:00~14:00	0	14:00~16:00	16時00分
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。						

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
					5日	
	11月	12月	1月	計	29日	
	14日		10日			
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。						

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	~500名くらいまで
		鑑賞人数目安	~500名くらいまで



(図1)



(図2)

(図1) (図2) 体育館フロアに舞台を設置して行います。体育館ステージは、使用しません。体育館が狭い場合は、体育館の横方向に設置する場合や、前後逆に設置し、体育館ステージも客席として使用する場合があります。 舞台設置に必要な面積 (間口12~14M×奥行9M)

公演に係るビジュアル
イメージ
(舞台の規模や演出が
わかる写真)



(図3)



(図4)

※採択決定後、図
面等の提出をお願い
します。



(図5)



(図6)

(図3~図6) 「ルドルフとイッパイアッテナ」上演の様子

個性豊かなキャラクターの猫たちが、出演します。黒猫ルドルフが、イッパイアッテナやノラ猫たちと出会い、覚えた字で書いた本「ルドルフとイッパイアッテナ」を、猫たちが演じるという構成で、舞台は進みます。みんな一人ぼっちは嫌だ。みんな違うけれど、同じ地球で仲良く生きていきたい！ 歌って踊って、ガンバルニャン！ どんなに辛くても前を向いて、考えるんだ。「絶望は愚か者の答えだ！」

【公演団体名 劇団たんぽぽ】

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	～500名くらいまで
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>ワークショップは、2時限(90分)を予定しています。 1時限目は、全校生徒に対して、2時限目は、学年を限定して行うことを想定しています。</p> <p>【事前準備】 事前に劇中歌の楽譜や歌詞、音楽CDを各学校に配布します。休み時間を利用し、歌を周知していただきます。</p> <p>【ワークショップ当日】 エンディングソングを振り付きで練習し、本番でも一緒に歌って踊ろう！ ①活動内容を伝え、上演作品について説明。 ②劇団員稽古バージョンの体操、発声を体験。 ③グループにわかれて、お題に沿った人文字を作る。 その際、言葉は使わずに、協力して形を作る。 ④エンディングソング「We are all friends」の歌を練習。 手話を取り入れた振り付きで、稽古する。 ⑤学年ごとに、発表。本番は、全員で参加することを周知。</p> <p>舞台メイク体験&猫に変身体験！ ①出演者の猫メイクができるまでの動画を鑑賞。 (プロジェクターで投影、もしくは、個人タブレットで鑑賞してもらう) ②実際のメイク道具を使って、説明。 ドーランなどを手などに塗ってみて、感覚を体験。 ③可能であれば、児童数名に実際に猫メイクを施し、その様子を見てもらう。 ④マウスシールドに、それぞれ自分の思うネコを書いてもらい、それを付けて、言葉に頼らず、お互いのコミュニケーションをとれるような劇あそびを行う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">     </div>		
<p>ワークショップのねらい</p>	<p>エンディングソングを振り付きで練習し、それを本番も一緒に歌って踊ることで、全員でこの作品を作っているという一体感を感じて欲しいです。 エンディングソングの「We are all friends」の振りには、手話を取り入れています。そのため、「私たちは、みんな違うけど、みんな友だち。」そんなメッセージを伝える歌詞の意味をより理解することができます。また、手話表現がとても劇的であるため、振付に感情や想いを込めることもできます。ダンスとしての振りになると、苦手意識がある子も、手話を取り入れた振付は、動きとして恥ずかしがらず表現する入口になります。</p> <p>劇あそびワークショップでは、「ニャー」や「ミャー」などしかしゃべれない縛りを作ってグループワークをすることで、言葉に頼らないコミュニケーションが生まれます。言葉が通じなくても、思いを伝えるということ、相手の気持ちを読み取ろうとすること、それを感じてもらうことがねらいです。そこから、仲間と一緒に何かを作ることの楽しさ、協力することの大切さを感じて欲しいと思います。</p>		
<p>その他ワークショップに関する特記事項等</p>	<p>ワークショップは、基本的に体育館で行います。 内容や時間については、学校側とも話し合い、学校が抱える課題や要望等も取り入れながら柔軟に対応していきます。</p>		

本事業への申請理由

【公演団体名

劇団たんぽぽ

】

①本事業に対する取り組み姿勢

当法人は、本事業の前身である「本物の舞台芸術体験事業」や「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」そして、現在の「文化芸術による子供育成推進事業」に至るまで、何度も当事業の巡回公演に関わらせていただきました。

その中で、ワークショップや共演参加を通して、子どもたちが生き生きと変わっていく姿を、目の当たりにしてきました。それは、実施学校の先生方も驚き、感動するような子どもたちの変化や新たな発見でした。(こういう子だと思っていた児童の意外な行動が見えたり、学習発表会で演劇をやりたいという子どもたちの声があがったり等々)

当団体の作品づくりにおいては、常に、子どもたちと一緒に何を考えたいかをテーマに演目を決め、ワークショップでは、どのようにして、子どもたちの心を解放し、お芝居の世界(演劇)に興味を持ってもらえるかを考えて、活動をしています。今を生きる子どもたちと真剣に向き合い、各学校の特色や実態に沿って、先生方との話し合いを十分に取っながら、本事業に取り組んでいきたいと考えております。

近年は、インターネットの動画配信等により、様々な表現を画面を通して手軽に観ることができるようになりましたが、やはり、生の舞台に触れることは、とても貴重な体験であると考えています。この事業を通して、生の芸術文化に触れる機会の少ない子どもたちや、鑑賞のみの体験しか経験したことのない子どもたちへ、もっと身近に芸術文化に触れ、親しむ機会を広げていきたいと考えています。

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

年度替わりで担当者が変わった場合、事業について把握されていない学校も多く、事前打合せは、特に入念に行いたいと考えております。事業実施にあたって、当団体では、学校側や先生方に、負担がかからないよう、意思疎通を図りながら、進めていきます。

また、初めて事業を実施される学校には、事業の趣旨や、これまでの事業実施の様子、それによる子どもたちの変化なども丁寧に伝えていきたいと思っております。

そして、ワークショップ及び、本公演実施前の再確認等、学校側との連絡は、密に取り合い、ワークショップでの訪問時には、現場を見ながら、公演当日の打ち合わせをいたします。

ワークショップ指導に当たっては、共演ワークショップや表現指導の経験者が行います。そのため、これまで本事業を実施した経験や学びを生かし、実施校の特色に合わせ、臨機応変に対応できる体制で行うことができます。

また、提出演目である「ルドルフとイッパイアテナ」は、共演やそれに付随するワークショップで実績を重ねており、どのような状況であっても、この事業を効果的かつ円滑に実施できると考えております。

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫